

## I

1 鈴木牧之。「北越雪譜」。2 (b)天明。(c)寛政。3明德館。4阿仁銅山。後に「解体新書」の挿絵を描くことになる小田野直武は、秋田藩での鉱山開発の指導に訪れた平賀源内に洋画法を学んだ際に和洋折衷の独自の秋田蘭画を生み出し、司馬江漢にも影響を与えた。5戦国時代以降の通貨需要などにより鉱山開発は活発化し、灰吹法の導入は石見大森銀山などの産出量を増加させ、戦国大名によって銀貨などが鑄造され、銀など鉱産物は南蛮貿易などでも輸出品となり、たたら製鉄によってつくられた玉鋼は刀剣や農具に加工された。江戸初期においても幕府の鉱山の直轄化などで産出が増加し、それを基盤に三貨制などが整備され、また長崎貿易でも輸出されたが、徐々に金銀の産出は減少したために鉱山収入獲得や輸出のため銅の採掘が重要視されていった。その際に阿仁銅山などの産出の場で労働環境が悪化して煙毒など鉱山被害が多発した。(387字)

## II

1大山巖。2当時は第一次世界大戦中であり、加えてロシア革命への干渉として日本を含めた欧米各国の軍がシベリア出兵として派遣されていた。その際の国境や大陸をまたいだ各国の軍隊の交流がスペイン風邪の大流行を引き起こした。3岩倉使節団。女子英学塾を創立し、女性教育・英語教育に注力した。4かつて江戸幕府が欧米諸国と結んだ安政の五カ国条約は、欧米諸国に領事裁判権を認めるなど不平等な内容をもっていたため、明治政府は不平等条約の改正をめざして井上馨を責任者として東京で予備会議を開いて一括交渉を進めていた。交渉を有利に進めるために欧米の外交官を接待するための社交場として鹿鳴館を建設したり、舞踏会や夜会を頻繁に開く欧化政策をとっていたが、その際の西欧婦人と日本婦人との意思疎通を捨松が仲介することで、欧米人とも円滑に会話ができるという近代国家としての体面を保とうとした。(379字)

## III

1人民戦線事件。ファシズムを阻止するための人民戦線を企図したとして、治安維持法違反容疑で山川均ら社会主義者らが大量検挙され、大内兵衛ら労農派の教授グループも検挙された。2記紀神話の合理的な文献批判が皇室の尊厳を侵したとされた。3「善の研究」。4統制派は、官僚・財界などとも提携して政治・経済・文化・教育など広範な分野での新体制運動を通して実現する高度国防国家の建設を目指し、皇道派は、直接行動によって政党や元老・重臣などを排除して天皇親政に基づく軍部政権を樹立することによる昭和維新の断行を主張していた。皇道派青年将校による二・二六事件が失敗に終わると、統制派は肅軍を掲げて、予備役に追い込んだ皇道派将官の復権を防ぐためと称して軍部大臣現役武官制を復活させるなどして皇道派を一掃し、政治関与を強めた。(350字)